

平成 27 年度 小学校用教科書

ひろがる言葉

小学国語

編集の趣意と特色



子どもたちが、

「国語をもっと好きになる教科書」へ

表紙のテーマ

- 一・二年生…動物が主人公の、楽しい遊びや体験の世界
- 三・四年生…友達や身近な人たちとふれ合う喜び
- 五・六年生…社会の中でのさまざまな物事との出会い



表紙 tupera tupera



「共に生きる言葉の力」を
身につけるために

「学ぶ意欲」を大切に、

「言葉の力」(国語の学力)を育てる
「豊かな心」を育てる



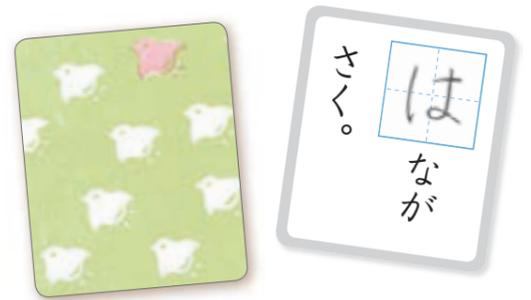
目次

学ぶ意欲	2
一年間の「国語」の学び	4
言葉の力	6
話す力・聞く力・書く力	6
読む力	8
活用力	10
考える力・伝え合う力	12
表現力	14
漢字の習得と定着、語彙力	16
読書力	18
入門期	20
豊かな心	22
伝統文化に親しむ	22
郷土を愛する	24
先達の言葉	26
——中学生になる子どもたちへのメッセージ	26
心の成長——道徳教育との関連	28
子どもたちの学習を支えるさまざまな配慮	30
指導書・拡大教科書・デジタル教科書のご案内	32



〔穴あき加工〕 ▲1上 なかよし

学ぶ意欲
 子どもたちの
 「やってみたいな」
 「楽しいな」を大切に



〔かるた用紙〕 ▲1上 かるたをつくってあそぼう (巻末付録)



〔ポップアップ/ペープサート〕
 ▲2下 いなばのしろうさぎ (巻末付録)



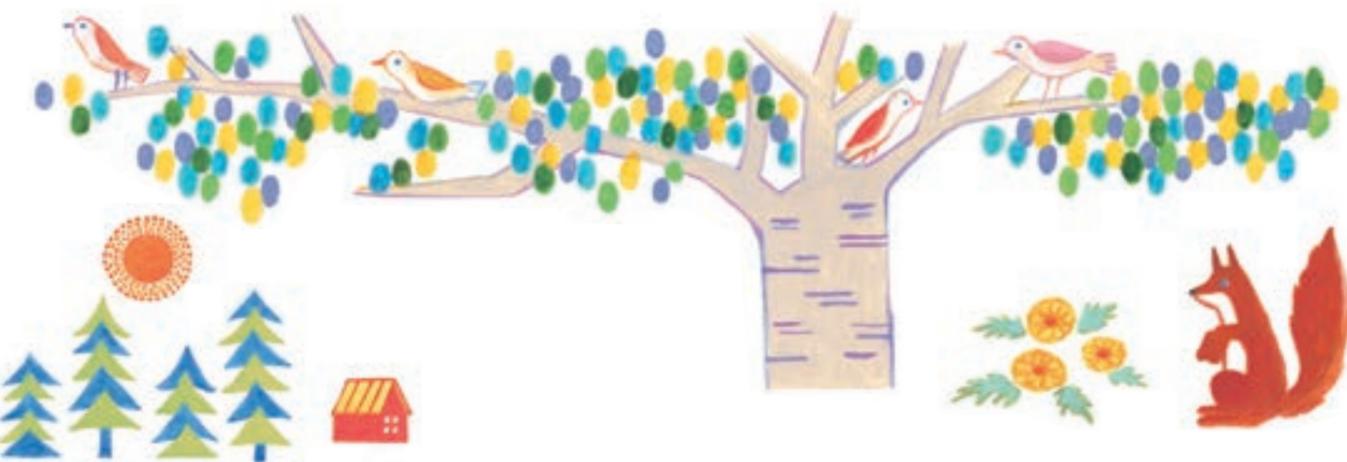
〔左右観音開き〕 ▲1上 おはなしのくに

一年間の「国語」の学び

「三年生を例に」

上下巻の分冊による構成

子どもたちが持ったときの重さに配慮するとともに、一年に二回、新しい教科書と出会う期待と喜びを大切に考えて、上下巻の分冊の構成にしています。分冊により、ゆとりをもったページ展開が可能になり、高学年の教材にも十分な紙面を確保しています。



後期

前期

3学期	2学期	1学期
<ul style="list-style-type: none"> この本で学ぶこと 漢字の学習 125 124 122 言葉の木 三年生で読みたい本⑤ 143 141 126 	<ul style="list-style-type: none"> この本で学ぶこと 言葉の木 138 136 三年生で読みたい本① 155 153 	<ul style="list-style-type: none"> この本で学ぶこと 言葉の木 155 153 三年生で読みたい本② 140 135
<ul style="list-style-type: none"> 一 夕日がせなかをおおてる ゆうひのてがみ 野呂 稔 いちばんぼし まじ・みちお 二 詩を来しもう 三 たまごの見分け方をしようかいしよう 四 どちらが生たまごでしょう 五 漢字の広場⑥ 漢字の組み立て 六 調べてほうこうしよう 七 町の行事について調べよう 八 中心場面を明らかにしよう 九 強心臓のこころについて 十 漢字の広場⑦ 二つの漢字の組み合わせ 十一 物語を読んで、手紙を書こう 十二 おにたのぼうし あまん きみこ 	<ul style="list-style-type: none"> 一 絵文字について説明しよう くらしと絵文字 太田 幸夫 二 はつしたのこころを詩に書こう 三 させつの言葉を集めよう 秋・冬 さむ 四 話し合ってみよう 五 係の活動について考えよう 六 漢字の広場④ へんとつくり 七 物語のおもしろいところをしようかいしよう 八 モチモチの木 斎藤 隆介 九 「おすすめ図書カード」を活用しよう 十 こそあと言葉 十一 日本の文化に親しもう 十二 ことわざ・慣用語 十三 漢字の広場⑤ 三年生で学ぶ漢字② 	<ul style="list-style-type: none"> 一 いろいろな手紙を書こう 二 調べたことをほうこうしよう 三 見学したことを知らせよう 四 インタビューをしよう 五 漢字の広場③ 送りがな 六 物語をしようかいしよう 七 わすれられないおくりもの スーサン パーレイ 文・絵 小川 仁央 やく 八 ローマ字 九 漢字を学ぼう
<ul style="list-style-type: none"> 一 ことばと出会う かえるのびよん 谷川 俊太郎 二 「聞き取りクイズ」をしよう 三 物語のつづきをそうぞうしよう 四 白い花びら やえがしなまこ 五 「発見ノート」を作ろう 六 国語辞典の引き方 七 大事なことをつまみよめよう 八 めだか 杉浦 宏 九 図書館へ行こう 本で調べよう 十 理由やれいをあげて説明しよう 十一 生き物のとくちようをくらべて書こう 十二 漢字の広場① 漢字学習ノート 十三 日本語のひびきにふれよう 十四 俳句に親しむ 十五 させつの言葉を集めよう 春・夏 ふな 十六 すしみを立てて発表しよう 十七 たからものをしようかいしよう 十八 言葉の使い方を考えよう 十九 気持ちをつたえる話し方・聞き方 二十 物語をそうぞうして書こう 二十一 のらねこ 三木 卓 	<ul style="list-style-type: none"> 一 国語学習への導入単元 (読む(鑑賞詩)十話すこと・聞くこと・日常化教材) 二 読むこと(文学)単元 学年により四〜六教材 三 書くことの日常化教材 帯単元を想定 四 読むこと(説明文)単元 学年三教材 五 読書教材 上下巻に二教材ずつ。上巻は、図書館活用の教材(二〜四年) 六 書くこと単元 学年により二、三教材。ほかに年間三か所に小教材 七 伝統的な言語文化の単元 学年に二教材。ほかに年間二か所に小教材 八 話すこと・聞くこと単元 学年に三教材。ほかに年間一、二か所に小教材 九 言葉単元 学年一教材 十 読むこと(文学)単元 十一 書くこと単元 十二 読むこと(文学)単元 十三 付録 発展教材や参考資料など 	<ul style="list-style-type: none"> 一 「いぎないのページ(巻頭)」 二 国語学習への導入単元 (読む(鑑賞詩)十話すこと・聞くこと・日常化教材) 三 読むこと(文学)単元 学年により四〜六教材 四 書くことの日常化教材 帯単元を想定 五 読むこと(説明文)単元 学年三教材 六 読書教材 上下巻に二教材ずつ。上巻は、図書館活用の教材(二〜四年) 七 書くこと単元 学年により二、三教材。ほかに年間三か所に小教材 八 伝統的な言語文化の単元 学年に二教材。ほかに年間二か所に小教材 九 話すこと・聞くこと単元 学年に三教材。ほかに年間一、二か所に小教材 十 言葉単元 学年一教材 十一 読むこと(文学)単元 十二 書くこと単元 十三 読むこと(文学)単元 十四 付録 発展教材や参考資料など

「いぎないのページ(巻頭)」

国語学習への導入単元 (読む(鑑賞詩)十話すこと・聞くこと・日常化教材)

読むこと(文学)単元 学年により四〜六教材

書くことの日常化教材 帯単元を想定

読むこと(説明文)単元 学年三教材

読書教材 上下巻に二教材ずつ。上巻は、図書館活用の教材(二〜四年)

書くこと単元 学年により二、三教材。ほかに年間三か所に小教材

伝統的な言語文化の単元 学年に二教材。ほかに年間二か所に小教材

話すこと・聞くこと単元 学年に三教材。ほかに年間一、二か所に小教材

言葉単元 学年一教材

読むこと(文学)単元

書くこと単元

読むこと(文学)単元

付録 発展教材や参考資料など

「いぎないのページ(巻頭)」

この本で学ぶこと

国語の学習 これまでこれから 学年末の振り返り

指導事項と学習用語の一覧。上下巻に二教材ずつ

付録

読むこと(鑑賞詩)単元 上下巻に二教材ずつ

読むこと(説明文)単元

話すこと・聞くこと単元

書くこと単元

伝統的な言語文化の単元

下巻は、読書体験の交流をとおして読書に親しむ教材(二〜六年)

読むこと(文学)単元

読むこと(文学)単元

話すこと・聞くこと単元

書くこと単元

伝統的な言語文化の単元

下巻は、読書体験の交流をとおして読書に親しむ教材(二〜六年)

読むこと(文学)単元

読むこと(文学)単元

話すこと・聞くこと単元

書くこと単元

伝統的な言語文化の単元

下巻は、読書体験の交流をとおして読書に親しむ教材(二〜六年)

話す力
聞く力
書く力
読む力

目的と見通しをもって学び、 確実に「習得」し、定着を図る

この単元で「何を」「何を」「どのように学ぶのか」、「今、何を学習しているのか」、学習の目的とステップを子どもたちが理解して進みます。

たからものをしようかいしよう

友だちの思い出や感想をもとに、自分の発表をふり返りましょう。

学習の進め方

① たからもの
② 作り方
③ 四つ葉のクローバー
④ シール
⑤ リボン
⑥ たからものに合った理由
⑦ おばあちゃんといっしょに見つけたから
⑧ よびかけ

◆ **「学びのステップ」**
学習の進め方
全員が見通しをもって学び、単元のゴールを理解して学習します。

◆ **「単元の目標」**
この単元で、どのような学習をするのか、子どもたちにわかりやすい言語活動で示しています。

◆ **「単元の学習のめあて」**
どのような点に留意して学習するのか、指導事項に対応しためあてを示しています。

◆ **「学習ツール」**
目的に合わせて活用できるように、さまざまなメモ・カード・ノート例を提示しています。

「学び合いの交流活動」
子どもたちの感想や助言などの例を、内容・表現の両面から具体的に示しています。

◆ **「振り返り」**
学習を振り返り、「習得」したことを自覚することが、「活用」へとつながっていきます。

◆ **「学習のポイント」**
◆ **「ここが大事」**
「習得」すべき大事な点を、系統的に整理して示しています。

◆ **「学習スキル」**
このあとの学習でも活用できる知識や技能に関する事柄を提示し、定着を図ります。

◆ **「言葉をつやみか」**
よびかけの言葉
● どうして……か
● と思いますか。
● みなさんは、……したことはありますか。
● ……してみませんか。

◆ **「学習のまとめと確認」**
◆ **「この本で学ぶこと」**
その巻で学習する指導事項と学習用語の一覧。下巻では、上巻の学習用語も再度掲載しています。

この本で学ぶこと

学習事項	指導事項	学習用語
1. 四つ葉のクローバーの作り方を学ぶこと	1. 四つ葉のクローバーの作り方を学ぶこと	四つ葉のクローバー、シール、リボン
2. たからもの思い出を話し合うこと	2. たからもの思い出を話し合うこと	たからもの思い出、話し合い
3. おばあちゃんといっしょに見つけたからという理由を話すこと	3. おばあちゃんといっしょに見つけたからという理由を話すこと	おばあちゃん、理由
4. よびかけの言葉を使うこと	4. よびかけの言葉を使うこと	よびかけの言葉

▲3上 この本で学ぶこと



学びを繰り返しながら、 活用する力をつける

習得した学習内容を「活用」しながら、新たに「習得」したことを加えて、学びを系統的・らせん的に積み重ねます。



六年下巻

● 根拠を明確にして 意見文を書く



▲6下 意見文を書く

五年下巻

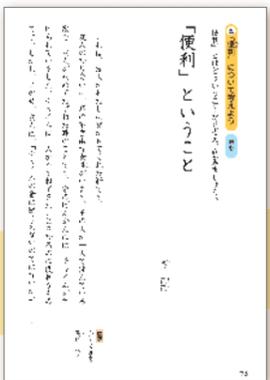
● 立場を決めて 根拠をはっきりさせて 意見文を書く



▲5下 世界遺産 白神山地からの提言
—意見文を書く

四年下巻

● 筆者の考えを、自分の経験と結びつけて読む



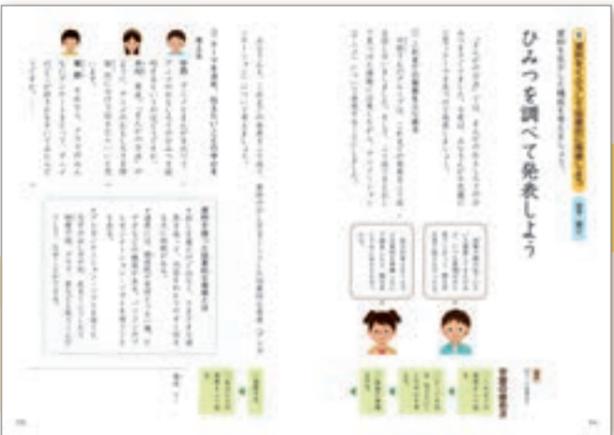
▲4下 「便利」ということ

● 立場をはっきりさせて 意見を出し合う



▲6上 未来の自動車
—パネルディスカッションをしよう

● 自分の考えを 資料をもとに 発表する



▲5下 ひみつを調べて発表しよう

● 資料をもとに 発表する



▲4下 調べてわかったことを発表しよう

六年上巻

● 立場を決めて 意見や考えを深める



▲5上 「意見こうかん会」をしよう

五年上巻

目指す

考える力
伝え合う力

学び合い、認め合うことと、 考える力と伝え合う力を育てる

子どもたちが考えるときの観点や発言の参考となるよう、学び合いの場を設け、具体的な発言例を示しています。

話すこと・聞くこと

「話す・聞く」の活動の各段階で、助言や感想を述べ合います。

みんなの方を見ながら、ゆっくり話すと、聞く人が聞きやすくなるよ。



◀2上 すきなことをつたえよう

友達の感想や意見を聞いて、構成を考え直したり、下書きを直したりします。

しおりの作り方が、話の中心だと思ったよ。

先に理由を話したほうがわかりやすいね。



おばあちゃんと見つけたクローバーを自分でしおりにしてきたことが、いちばんつたえたいことかな。

◀3上 たからものをしょうかいしよう

書くこと

「書く過程での、書きぶり・構成の観点」文章の組み立てを考える過程では、助言や感想、意見の例を示します。

歩ける前のできごとを入れようかどうしようか、まよっているんだけど。

いちばん伝えたいのは、どんなことかな。

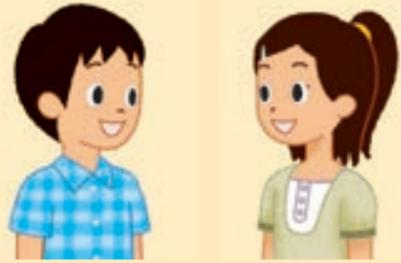
ぼくの弟も同じだったよ。どうやって歩けるようになったかも、入れたらどうかな。



▲4下 心の動きがわかるように

終わり方はどうしようかな。

そのできごとから自分の考えや思いがどう深まったのかが言えるといいね。



▲6上 随筆を書こう

【交流での、作品のよさ・内容の観点】文章を発表し合う交流の場面では、作品のよさを見つける着眼点を示します。

反対意見への反論を書くくと、説得力が増すね。

ぼくの家でも、たくさんのごみが出ているから、減らす努力をしていくよ。



▲6下 意見文を書こう

読むこと

第二次の活動では、読みの着眼点を示します。

「どのような方法か」を説明しているところと、「どのような効果があるのか」を説明しているところに分けられそう。

「考えてみましょう。」や「どうでしょうか。」など、読む人に語りかけるような文を入れて書いているね。

実際のまんがの例を示しながら説明しているのも、表現の特徴といえそう。



◀5下 まんがの方法

第三次の活動では、話し合ったり、感想や意見を述べ合ったりする例を示します。

回してみると、見分けられるんだよね。

なぜ、回り方がちがうのか、理由も大切だね。

写真の順番をくふうしてみようか。



◀3下 どちらが生たまごでしょう

六年間を通して、少しずつ継続して 取り組み、表現する力を高める

上巻の早い時期に、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の日常化を図るための小教材を設定しました。

「帯単元」として表現学習の日常化を図り、 少しずつ表現力をつけていきます

話すこと・聞くこと

継続的に取り組み、話すことと聞くことに慣れる

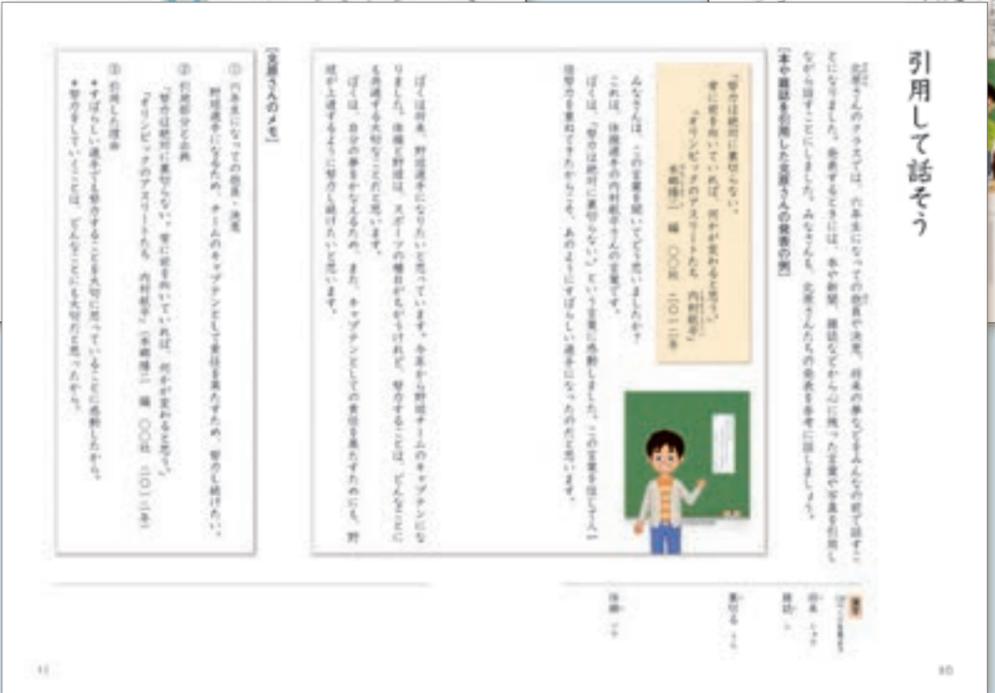
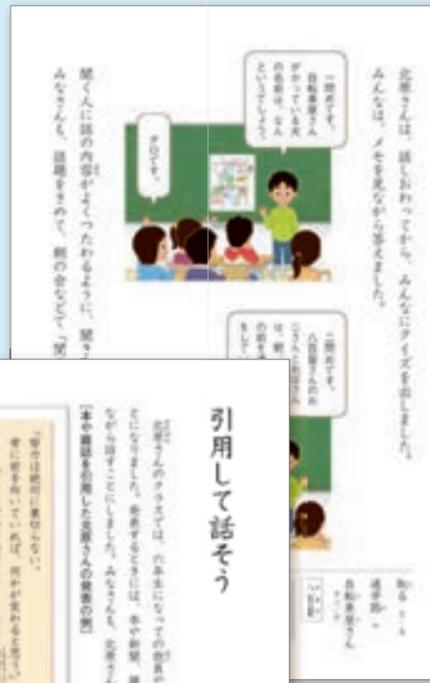
書くこと

書いた文章の、活用場を設ける



▲3上 「聞き取りクイズ」をしよう

- 一年 みんなにはなそう
- 二年 声のものをさしをつかおう
- 三年 「聞き取りクイズ」をしよう
- 四年 くらべて発見しよう
- 五年 「要約伝言ゲーム」をしよう
- 六年 引用して話そう



▲6上 引用して話そう



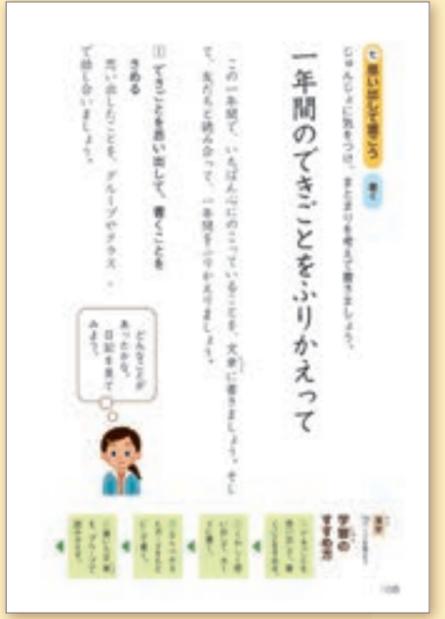
▲5上 「要約伝言ゲーム」をしよう



- 一年 カードにかいてしらせよう
- 二年 つづけてみよう—日記—
- 三年 「発見ノート」を作ろう
- 四年 心のスケッチをしよう
- 五年 「情報ノート」を作ろう
- 六年 考えや意見をノートにまとめよう



▲2上 つづけてみよう—日記—



▲2下 一年間のできごとをふりかえって

日記「日記」を活用

どんなことがあったかな。日記を見てみよう。



漢字の習得と定着、語彙力

漢字を習得し、定着させる工夫 語彙を増やすための工夫

表現力を高めるには、漢字の習得と、語彙を増やすことが大切です。そのためにさまざまな機会を設けました。

漢字の習得と定着のための二つの場

① テーマ別学習で系統的に



▲5上 漢字の広場② 複合語

② 新しく学ぶ漢字はドリル形式で



③ 前学年で学習した漢字は、短文作りをおとして



漢字を学ぼう (巻末)

新出漢字も前学年の漢字も、必ず書き文字で示し、筆順もおさえます。

73	鋼	72	複	70	句	68	刊	65	評	63	張
74	証	74	程	74	余	74	則	73	旧	73	依
75	季	75	鏡	75	木	75	連	74	志	74	林
75	額	75	覚	75	輪	75	貯	75	受	75	隊
75	節	75	昨	75	兵	75	昨	75	昨	75	昨

▲5上 漢字を学ぼう

さまざまな場で語彙を増やす

脚注で

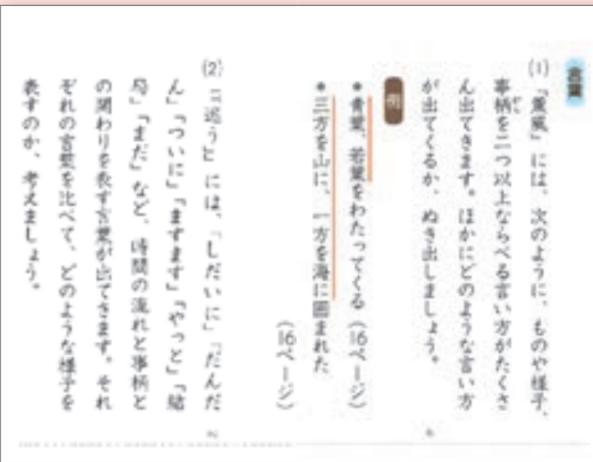
文脈の中の生きた用例に着目



▲4上 白いぼうし

「てびき」で

文章の中の、特徴的な言葉の用法を学ぶ



▲6上 薫風・「迷う」

教材の中で

説明・発表・話し合いなどでの言い方を学ぶ



▲2下 「おもちゃ大会」をひらこう

付録で

関連づけて語彙を増やす



▲3下 言葉の木 (付録)

読書力

読書に親しみ、すすんで本を手にとる子を育てる

各学年約80冊の図書を取り上げることで、多くの本との出会いの場を用意しました。

教材に関連させて

「読むこと」の単元末

調べたり、確かめたり

各学年上巻「読書教材」

同じテーマやシリーズなど、子どもたちが学習したことを広げ、深めていける作品を選定しています。

さまざまな情報や知識を本から学ぶ機会として、各学年の上巻に情報活用のための読書教材を設定しています。



▲5上 言葉と事実 てびき



▲2上 わにのおじいさんのたからもの てびき



▲3上 本で調べよう

交流をとおして、広げたり、深めたり

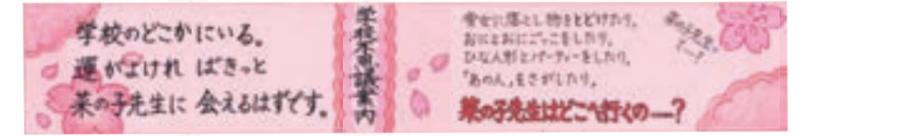
各学年下巻「読書教材」

こんな本も読んでみよう 『〇年生で読みたい本』

全学年 上下巻 巻末折込

読書体験の交流をとおして、子どもたちが想像の世界を広げたり、深めたりできるように、各学年下巻に、読書教材を設けています。ブックトークや本の帯紙作り、ポップ作りなど、読書の世界を広げるさまざまな活動を紹介しています。

全巻の巻末で、学年の発達段階に応じたテーマでさまざまな図書を紹介しています。友情や冒険物語から、安全・安心をテーマにしたノンフィクションまで、多彩なラインアップで読書への意欲と興味を高め



▲5下 「図書せいせん会」を開こう



6上 巻末折込



伝統文化
に親しむ

伝統的な言語文化の世界へ 美しい日本の言葉や響きを味わおう

季節の言葉、生活の言葉

昔から受け継がれ、日本の生活に息づいている季節や暮らしの言葉。子どもたちに伝えたい、美しい言葉を精選しました。



春はあけぼの。

（ヨウヨウ）
やうやう白くなりゆく山ぎは、

すこしあかりて、

紫だちたる雲の細くたなびきたる。

春はあけぼのがいい。

だんだんと白くなっていく空の、山に近い辺りが、少し明るくなって、

紫がかった雲が細長く横に引いているのがいい。

▲6上 春はあけぼの



▲3上
きせつの言葉を集めよう

今も生きる「古典」に親しむ

日本人は、千年も前から物語に親しんできました。現存最古の物語『竹取物語』は、「かぐやひめ」として、今もなお親しまれています。古くから受け継がれてきた「古典」と出会えます。

伝統芸能にふれる

日本人として、知っておきたい伝統芸能の世界。子どもたちにも親しめる題材を紹介しています。



狂言

▲5下 「古典」を楽しむ



▲4上 そろそろ（落語）



5下 「古典」を楽しむ▶



郷土を愛する

郷土を大切に思い、誇りをもてるように

生まれ育った土地に目を向け、郷土への誇りや愛する心を育てられるように、それぞれの土地に関するさまざまな話題・題材を取り上げました。



25.5じょうのたこ



いろいろな形のたこ

▲3下 町の行事について調べよう

写真は、説明する順番に合わせて使おうよ。

たこあげがさかなわけは、天気と関係があることがわかったね。図を大きくかいて、見せながら説明しようよ。

たこの大きさがわかるしりょうも入れたいね。

たこがあがる仕組みを説明するなら、どのしりょうがいいかな。

インタビューの録音を聞いてもらうのはどうかな。

3年生で読みたい本④

『つな引きのお祭り』

『エイサーガーイー』

『ななてんねん 天満はん 天神様』

『ひなまつりに おひなさまをかざるわけ』

『なごさきくち』

『行事むかしむかし』

『和』の行事えほん (全2巻)

『雨をよぶ篇 4年にいちどの雨ごい行事』

『楽しいお祭り・行事』

▲3下 3年生で読みたい本④ 楽しいお祭り・行事 (巻末折込)

「わが町ベスト・スリー」を決めよう

「わが町ベスト・スリー」を決めよう

「わが町ベスト・スリー」を決めよう

「わが町ベスト・スリー」を決めよう

「わが町ベスト・スリー」を決めよう

▲5上 「わが町ベスト・スリー」を決めよう



とどろきけいこく 等々力深谷



たまがわ 多摩川の自然

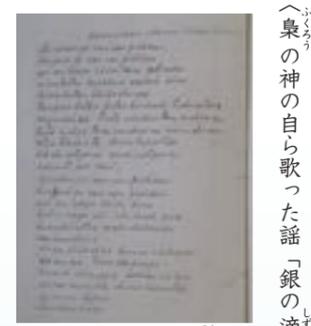


おおくら 大蔵大根



せたがや 世田谷ボロ市

『アイヌ神謡集』 (知里幸恵 訳)



知里幸恵の自筆ノート(草稿)

「銀の滴降る降るまわりに、金の滴降る降るまわりに。」
 という歌を私は歌いながら流に沿って下り、人間の村の上を通りながら下を眺めると昔の貧乏人が今お金持になっていて、昔のお金持が今貧乏人になっている様です。

▲6上 伝えられてきた作品 (付録)

『おもろそうし』 (外間守善 訳)

あけ 上がる三日月や
 あけ 神ぎや金真弓
 あけ 上がる赤星や
 あけ 神ぎや金細矢
 あけ 上がる群れ星や
 あけ 神が差し櫛
 あけ 上がる虹雲は
 あけ 神が愛きぎ帯

あけ、上がる三日月は、
 あけ、神の金真弓である。
 あけ、上がる赤星は、
 あけ、神の金細矢である。
 あけ、上がる群れ星は、
 あけ、神の差し櫛である。
 あけ、上がる虹雲は、
 あけ、神の大切にしている美しい帯である。

中学生になる

子どもたちへのメッセージ

卒業を迎える子どもたちへ、これからの世界を生きるための、確かな道しるべとなる言葉を届けます。

日野原重明さんからの言葉

いのちについて考える



百歳を超えてなお現役医師として活躍する日野原重明さんが、「いのち」について子どもたちに語りかけます。六年間の学びの最後に、子どもたちに考えてほしいテーマです。

いのち

この最後の絵は

君たちが真っ赤な野原で牛と話をしている姿です。

人間も牛も

鳥も昆虫も

すべて生きているから

いのちをもっている

だから牛も馬も

ペットの犬も昆虫も

花も木も

君たちと同じように

生きている

みんなが同じいのちを

もっているのだから

ぼくたちは兄弟姉妹だと

いえるんだね

『いのちのバトン』より



▲6下 君へ



司馬遼太郎さんからの言葉

生きる心がまえをもつ

歴史を見つめ、人間として生きること考えた作家の司馬遼太郎さんが、新しい時代を生きる子どもたちに残したメッセージを取り上げました。

中学生になるみなさんへ

ここにしようかという文章は、歴史を深く見つけてきた司馬遼太郎さんという作家が、大人に向かって歩んでいくみなさんに向けて書いたものです。司馬さんの言葉に、あなたはどんな思いをいだくでしょうか。どんな考えをもち、深めていくでしょうか。思ったことや考えたことを、みんなて話し合ってみましょう。四月から、みなさんは中学校へと進みます。中学校では、また、新しい友達、新しい言葉、新しい感動との出会いがあるでしょう。そして、新しい自分自身を発見していくことでしょう。

二十一世紀に生きる君たちへ

司馬遼太郎

私は、歴史小説を書いてきた。そして歴史が好きなのである。歴史を愛するようになって、歴史を愛してはならない。と聞かれるとき、それは、大きな歴史です。かつて存在した何物という人生がそこにつつまれていて、世界なのですよ。と、答えることにしています。私には、幸い、この世にたくさんすばらしい友人がいる。歴史の中にもいる。そこには、この世では求めたいほどにすばらしい人たちがいて、私の言葉を、はげましたり、なぐさめたりしてくれているのである。だから、私は少なくとも二千年以上の時間の中を、生きているようなものだと思っている。この美しさは——もし君たちもさう望むなら——おすそ分けしてあげたいほどである。

おすそ分け

▲6下 二十一世紀に生きる君たちへ



道徳教育との関連を図り、豊かな人間性を養う



◆共感し、認め合い、高め合うために

友達の言葉を受け止め、共感し、認め合う経験は、子どもたちの心の成長を促します。学校生活の中でそうした経験を少しでも増やすために、場に応じた言葉の使い方や、相手の立場に立って伝え合うことの大切さを体験する、ワークショップ型の教材を設定しました。日頃の自分の言葉の使い方やコミュニケーションのあり方を振り返ります。

言葉単元 (一年下巻・二〜六年上巻)

- 1下 おもしろいことば
- 2上 うれしくなる言葉
- 3上 気持ちをつたえる話し方・聞き方
- 4上 言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ
- 5上 話し言葉と書き言葉
- 6上 心を見せる言葉



▲2上 うれしくなる言葉

◆心の成長と自律のために

言葉は自分を律し、支えるものでもあります。自分を見つめ、心の成長を促す教材を設けました。

書くこと単元 自己表現作文系列(一〜五年下巻・六年上巻) 読むこと単元

- 1下 お手がみ
- 2上 つづけてみよう―日記―
- 3下 モチモチの木
- 5上 いつか、大切なところ
- 6上 引用して話そう
- 6下 ぼくの世界、君の世界
- 6下 二十一世紀に生きる君たちへ
- 6下 自分を支える言葉(付録)



▲3下 モチモチの木



▲5上 いつか、大切なところ

◆生命の尊重

- 1下 りすのわずれもの
- 2下 てんとうむし
- 2下 さげが大きくなるまで
- 3上 わすれられないおくりもの
- 3上 命の重み(折込図書紹介)
- 4下 ウミガメの命をつなぐ
- 5下 みすゞさぎの旅
- 6下 イナゴ
- 6下 君へ

◆自然や人間の力を超えたものへの畏敬の念

- 4上 科学が開く世界(折込図書紹介)
- 5上 大造じいさんとがん



▲5上 大造じいさんとがん

◆環境教育

- 4上 見学したことを報告しよう
- 5下 世界遺産 白神山地からの提言
- 5下 環境を考える(折込図書紹介)
- 6上 森林のはたらきと健康

◆公共心

- 4下 「便利」ということ
- 4下 いっしょに歩もう(折込図書紹介)
- 6上 未来の自動車・パネルディスカッションをしよう

◆勤労の意義・ものづくり

- 3上 見学したことを知らせよう
- 4上 司書(付録)
- 4下 「便利」ということ
- 6下 伊能忠敬
- 6下 翻訳家(付録)

◆情報化社会への対応

- 5上 言葉と事実
- 5上 新聞を読もう
- 5上 「意見こうかん会」をしよう
- 5下 電子メールで伝え合う(付録)



▲5上 言葉と事実

◆国際協調と平和を愛する心

- 4上 一つの花
- 5上 アジアの風(折込図書紹介)
- 6上 川とノリオ
- 6下 子どもたちを救いたい―オードリー・ヘプバーンの願い―(付録)
- 6下 世界へはばたけ(折込図書紹介)



▲4上 一つの花

◆安全・安心・防災に関する視点

- 3下 くらしと絵文字
- 4下 「便利」ということ
- 5下 クラスで活動報告をしよう
- 6上 命を守る・暮らしを守る(折込図書紹介)

◆食育

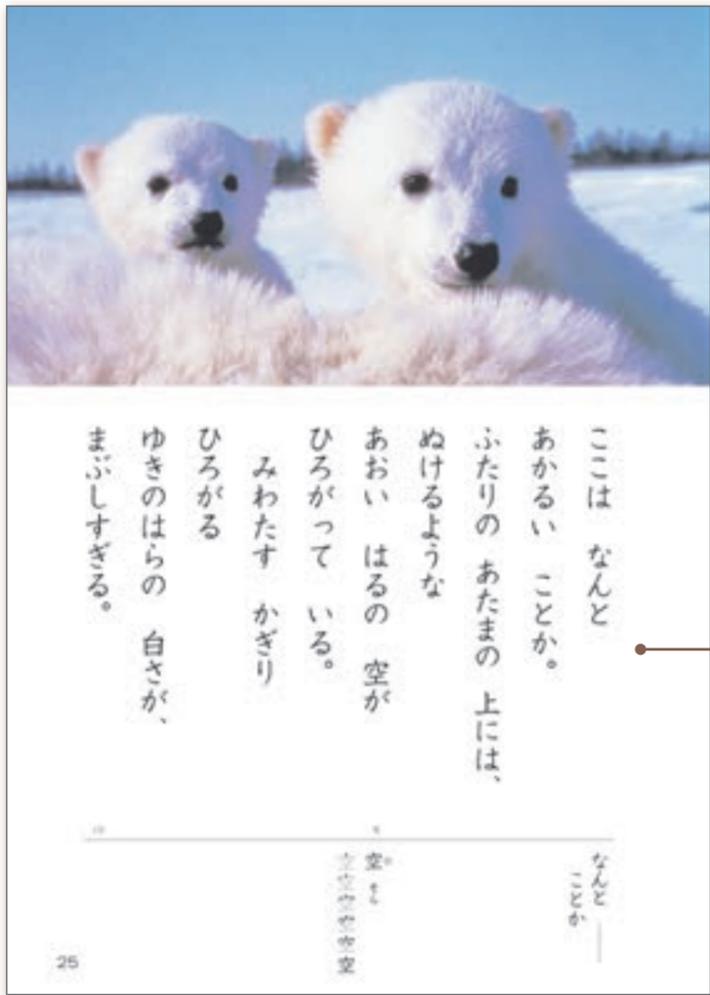
- 1上 あかるいあいさつ(給食)
- 2下 七草をおぼえよう
- 6下 意見文を書こう

子どもたちの学習を支えるさまざまな配慮

◆特別支援教育を視野に入れて

さまざまな個性をもった子どもたち。全ての子どもたちの個性を尊重しながら、学びに差が生じないよう、さまざまな工夫をしています。

一年上下巻は、行末を文節で改行。



◀1下 うみへのながいたび

◆見やすく、書き込みもしやすい紙面

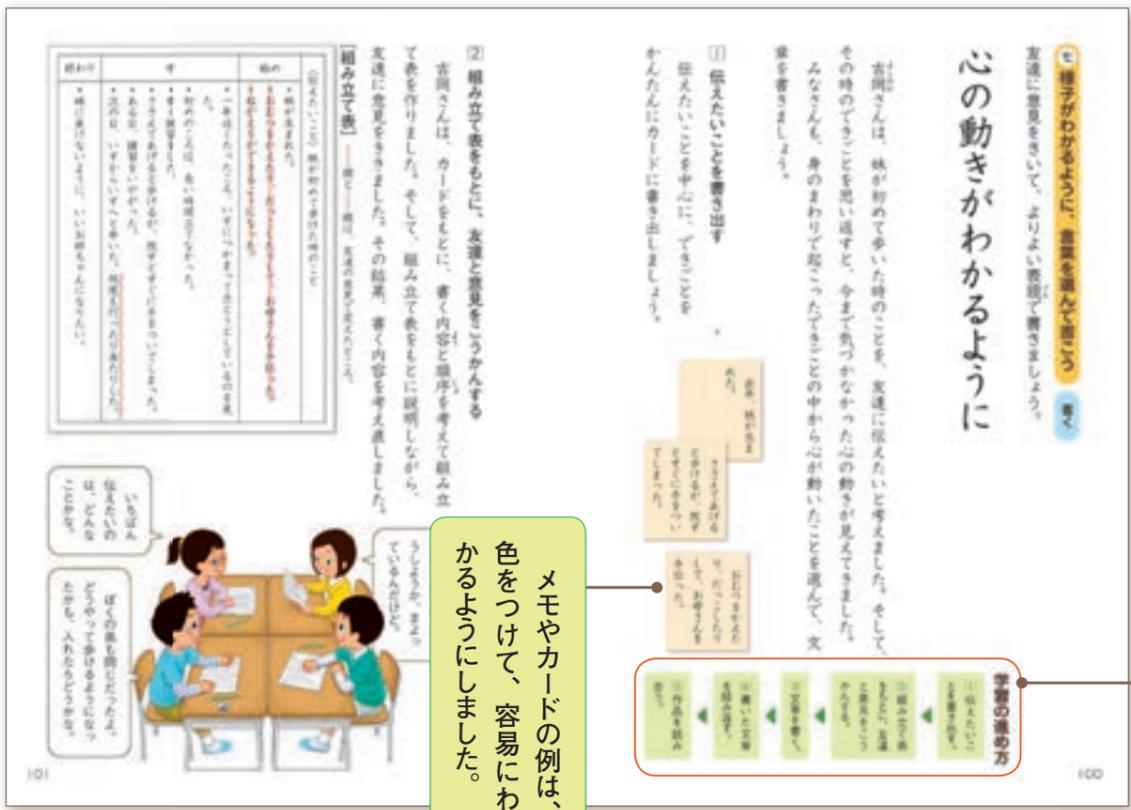
行間を広くとり、写真やイラストと、文字のあきを十分に確保することで、読んだり、書き込んだりするさまざまな活動をしやすくしました。

紙の色や厚さにもこだわっています。目に優しい淡いクリーム色を選び、印刷が透けにくい厚さの紙を選定しました。



◀3上 わすれられないおくりもの

どのように学習を進め、今どこを学習しているのかを、すぐに確認できます。



▲4下 心の動きがわかるように

メモやカードの例は、色をつけて、容易にわかるようにしました。

◆カラーユニバーサルデザインへのこだわり

色覚の特性を考慮し、色による違いに頼らず、形のうえでも識別できるように配慮しました。

色だけでなく、形でも違いがわかるように。



▲1上 ごじゅうおん

◆人権教育への配慮

文学的文章・説明的文章の表現、言語活動の設定やイラストにいたるまで、人権上の配慮をしています。

指導書・拡大教科書・デジタル教科書の3案内

教師用指導書

解説・展開編

ワークシート編 (CD-ROM付)

各教材の詳細な内容解説、学習展開例を網羅した『解説・展開編』と、それに即したワークシートなどを掲載した『ワークシート編』のセット。ワークシートは、児童の記入例も収録。



朱書編

授業に役立つ解説書。教材研究に関する内容と、授業展開に関する情報とを色分けして掲載。



総説編 (CD-ROM付)

教科書の全体構成がわかる、各領域・事項についての解説と、年間学習指導計画・複式指導計画などを収録。

音声・動画編

伝統的な言語文化に関する教材、文学教材、詩、説明文教材などの朗読を収録した音声CDと、話すこと・聞くこと教材などの動画を収録したDVDのセット。

指導案集 (書名は仮)

各学年一巻。

※各企画の内容は、変更になることがあります。

拡大教科書

弱視の子どもたちに見やすく使いやすいように、元の教科書の文字を大きくしたり、太くしたりしています。また、本文に合わせて写真や図版の位置や大きさなど、レイアウトも変更して、新たに紙面を構成し直しています。

語彙力が身につく

小学国語 デジタル教科書

ひろがる言葉 (第一～第六学年)

授業で役立つ工夫がたくさん！

- 一 語句の解説機能を搭載(協力：小学館)**
教科書の中で確実に身につけたい語句には、辞書の解説を表示できるようにしました。授業中にいつでも言葉の意味を確認し、辞書を調べる習慣を身につけることができます。
- 二 漢字の筆順表示をさらに見やすく一新**
授業の初めや振り返りの際によく使われる漢字の筆順も、さらに操作しやすく見やすいように、レイアウトとデザインを一新しました。
- 三 資料写真・動画の充実**
話し合いの様子を動画で確認できることはもちろん、文学教材の舞台や背景のほか、説明文教材の内容理解に役立つ資料写真・動画も充実させました。
- 四 本文の拡大機能を改善**
書体や文字数を改善し、いちばん後ろの席からでも見やすい拡大画面を用意しました。行間も広くとりましたので、書き込むことも容易です。



小学国語掛図 ひろがる言葉 (一上・中・下、二上・下、三上・下) 刊行予定

教科書にある挿絵や写真の中から選択して大きく印刷しました。みんなで見たり、教室に掲示したりすることで、読みを広げることができます。教材をすぐには準備できない、そんな時には、いつでもどこでも使える掛図が便利です。

「編集委員紹介」

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 田近洵一
東京学芸大学名誉教授 | 武井英昭
群馬大学大学院教授 |
| 北原保雄
新潟産業大学学長 | 丹藤博文
愛知教育大学教授 |
| 三木卓
作家 | 塚田泰彦
筑波大学教授 |
| 大内敏光
元東京都荒川区立峡田小学校校長 | 鶴巻景子
東京都杉並区立高井戸小学校校長 |
| 青木伸生
筑波大学附属小学校教諭 | 土居安子
大阪国際児童文学振興財団主任専門員 |
| 井上典子
東京都江戸川区立平井西小学校校長 | 中西淳
愛媛大学教授 |
| 井上善弘
国士館大学准教授 | 中村和弘
東京学芸大学准教授 |
| 今村久二
元東京都品川区立品川小学校校長 | 西研
東京医科大学教授 |
| 岩永正史
山梨大学教授 | 萩原昌好
埼玉大学名誉教授 |
| 植山俊宏
京都教育大学教授 | 廣川加代子
東京学芸大学特任准教授 |
| 大熊徹
東京学芸大学教授 | 府川源一郎
横浜国立大学教授 |
| 長田友紀
筑波大学講師 | 朴木一史
東京都葛飾区立清和小学校校長 |
| 茅野政徳
横浜国立大学附属横浜小学校教諭 | 細川大輔
東京学芸大学附属小金井小学校教諭 |
| 菊永謙
詩人・評論家 | 松山雅子
大阪教育大学教授 |
| 岸本修二
元東京都中央区立明石小学校校長 | 三上英司
山形大学教授 |
| 貴永紀彦
北海道札幌市立北光小学校校長 | 村中李衣
作家・梅光女学院大学教授 |
| 木下ひさし
宮城教育大学教授 | 矢崎節夫
作家 |
| 児玉忠
弘前大学教授 | 矢澤真人
筑波大学教授 |
| 小山恵美子
帝京大学大学院教授 | 横山広美
東京大学大学院准教授 |
| 近藤章
名古屋芸術大学名誉教授 | 若木常佳
福岡教育大学大学院教授 |
| 坂本喜代子
東京都足立区立千寿本町小学校主任教諭 | |
| 佐藤宗子
千葉大学教授 | |
| 汐見稔幸
白梅学園大学学長 | |
| 鈴木慶子
長崎大学教授 | |

特別支援教育監修
名越斉子 埼玉大学准教授
教育出版株式会社編集局



17 教出 国語 137



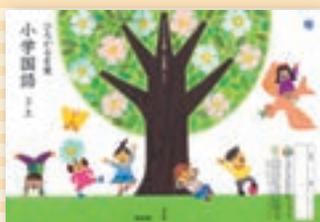
17 教出 国語 138



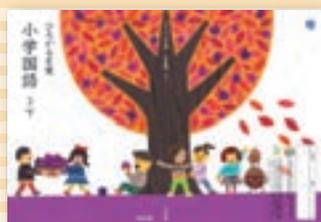
17 教出 国語 237



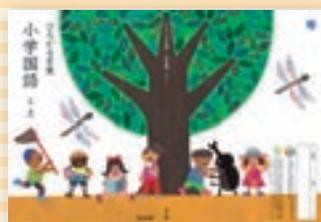
17 教出 国語 238



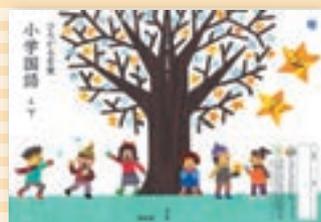
17 教出 国語 337



17 教出 国語 338



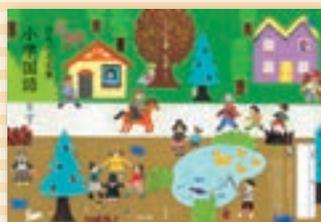
17 教出 国語 437



17 教出 国語 438



17 教出 国語 537



17 教出 国語 538



17 教出 国語 637



17 教出 国語 638

本社・支社・営業所

本社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10	TEL. 03-3238-6811	FAX. 03-3238-6810
北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北3条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F	TEL. 011-231-3445	FAX. 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング 3F	TEL. 0138-51-0886	FAX. 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F	TEL. 022-227-0391	FAX. 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F	TEL. 052-262-0821	FAX. 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F	TEL. 06-6261-9221	FAX. 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F	TEL. 082-249-6033	FAX. 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F	TEL. 089-943-7193	FAX. 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室	TEL. 092-433-5100	FAX. 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F	TEL. 098-859-1411	FAX. 098-859-1411